たのしいサイエンス通信
2019.02.07
29

植生遷移の観察

伊豆大島は溶岩の噴出をともなう大きな噴火に度々見舞われている。草原や森林が溶岩に巻き込まれると、植物は焼き払われ、土が全溶岩の下敷きとなってしまい、不毛の大地（裸地）となる。しかし時間の経過とともにそこに植物は侵入し、草原をつくり、やがては森を作っていく。

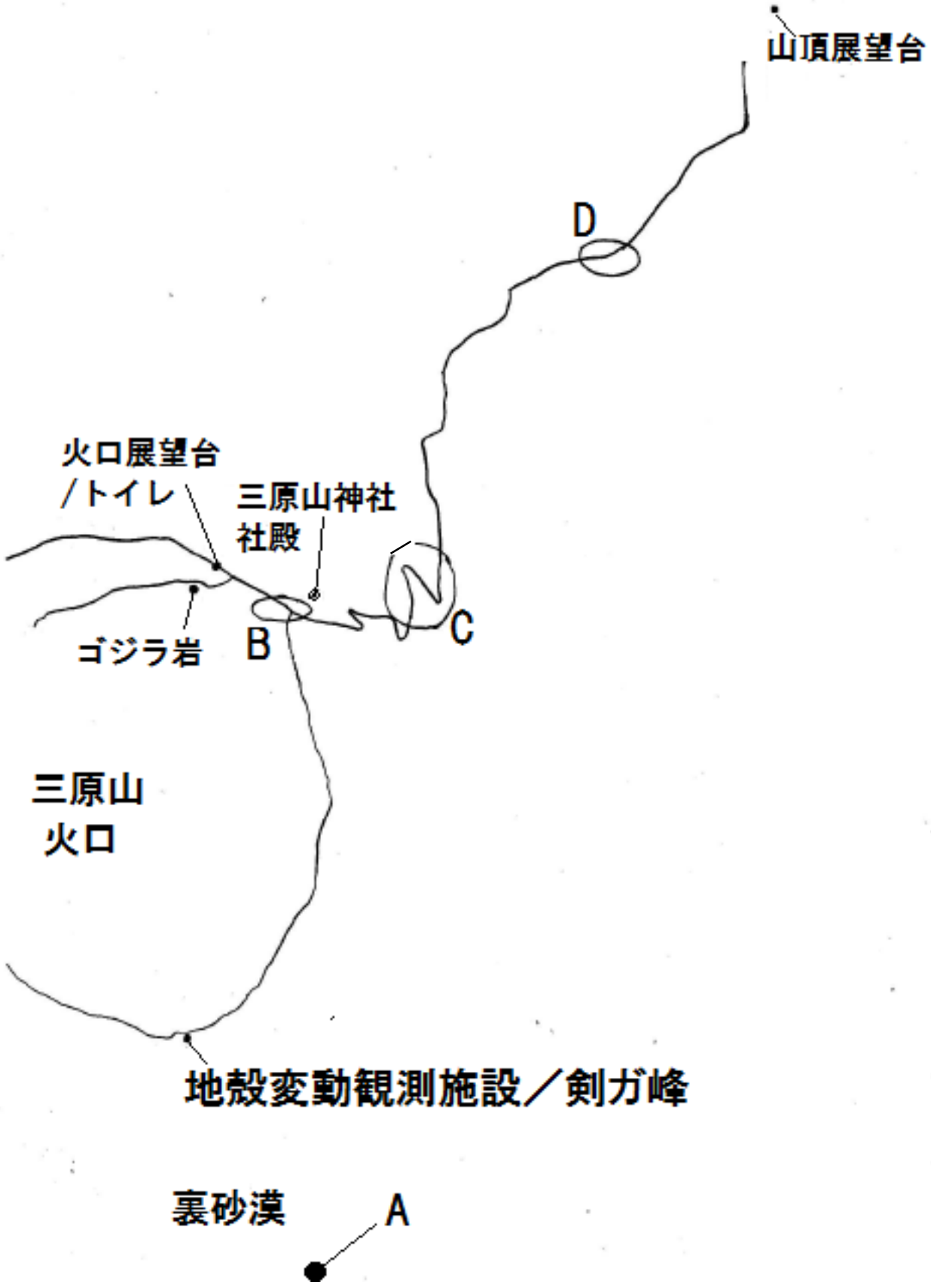
時間の経過により裸地、草原、森林へと移り変わっていくことを植生遷移と言う。

Googleが提供しているマップやストリートビューなどを使うと伊豆大島の植生遷移を自宅に居ながら観察することができる。今回はストリートビューの経路沿いにあるお勧めの観察ポイント４ヵ所を紹介する。それらの地点にはA，B，C，Dと名前を付けた（地図参照）。それぞれの特徴は表の通りである。

自宅で三原山周辺を探検してみよう。ストリートビューを拡大すればハチジョウイタドリやオオバヤシャブシなどの植物も観察することができる。

地点	溶岩噴出年	特徴
A	（火山ガスのため遷移がほとんど進行していない。）	（航空写真）植物はほとんどない。 （360°ﾊﾟﾉﾗﾏ写真）火山ガスのためほとんど遷移が進行してないが、若干の草本植物が観察できる。足元をみると地衣類が確認できる。
B	1986年	（航空写真）溶岩の中にところどころ植物が生えている。 （ｽﾄﾘｰﾄﾋﾞｭｰ）溶岩むき出しになっているが所々に群落が成立している。草本植物が多い。
D	1950-51年	（航空写真）溶岩の半分ぐらいを植物が覆っている。 （ｽﾄﾘｰﾄﾋﾞｭｰ）植物が地表を覆い、溶岩がむき出しになっている所はわずかである。草原の中に低木が生えている。

C	1777-78 年	（航空写真）緑で覆われていて溶岩は確認できない。 （ｽﾄﾘｰﾄﾋﾞｭｰ）低木林が成立している。

※山頂からの道程は ABCD の順だが、溶岩の噴出が遅い順は ABDC の順となる。表は溶岩の噴出が遅い順で作成した。

※ストリートビューの撮影年月日は画面右下に表示されている。